

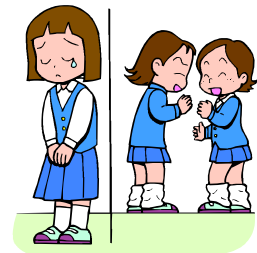
## Q 5 不登校の態様に応じた基本的な対応のポイントは何か。

不登校の態様については諸説があります。ここでは文部科学省が示している態様に基づいて基本的な対応の仕方を整理します。しかし、不登校の児童生徒の態様が時間的な経過の中で変化することもあります。一つの態様と決めつけて限られた対応に終始することなく、状況に応じた対応が必要となることは言うまでもありません。

文部科学省では不登校の態様を「A 学校生活に起因する型」「B 遊び・非行型」「C 無気力型」「D 不安などの情緒混乱型」「E 意図的な拒否型」「F 複合型」「G その他」の7つの態様に分類しています。ここでは、その7つの態様のうちA～Eの5つの態様について、1 典型例 2 具体的方策と留意点 3 関係諸機関との連携について示します。

### A 学校生活に起因する型

いじめや嫌がらせをする児童生徒の存在や学校での友人関係、教職員との人間関係など、明らかに学校生活上の原因から登校しない型。



#### 【1】典型例

##### 例 1

友達の秘密を漏らしたために、友達の間で、「うそつき」「信用できない」と責められ、仲間はずれにされ、さらには「殴られるかもしれない」ということで登校できなくなる。その後の指導で、周りの生徒とは仲良くなったが、「不安はないが登校しても遊ぶ友達がいない」という理由で欠席を続ける。

##### 例 2

担任から指導されたときに、注意を素直に聞けず、職員室に呼び出されて指導されたことで、担任との関係が悪くなる。同じクラスの友人たちと、担任のことを「うとうしい」など担任に聞こえるように話すようになる。担任の授業中に、分からないところを友人に聞いていたところ、「関係ない話をするな」と、みんなの前で注意されたことがきっかけになり、不登校になる。

#### 【2】具体的方策と留意点

##### ポイント 不安感や不信感を取り除くための継続的な相談活動

###### (1) 不安感、不信感を取り除くための家庭訪問

不登校になった要因やきっかけを正しく理解し、それに応じた対応をする。

日々の学校・学級の様子を知らせる。(ただし、不安感が大きい時は知らせない。)

###### (2) 保護者との信頼関係づくり

保護者に学校の指導方針を明らかにし、学校や担任の今後の指導の改善点についてできるだけ具体的に伝え、理解を得られるようにする。

###### (3) 仲間づくり

一人一人のよさを認め合う集団づくりに心がける。

##### 【3】関係機関等との連携

・総合教育センター(教育研究所)・スクールカウンセラー・主任児童委員・民生児童委員等

## B 遊び・非行型

遊ぶためや、他校の児童生徒や卒業生などのグループに入ったりして生活習慣が乱れ登校しない型。

### 【1】典型例

#### 例1

家庭や学校がおもしろくなく、深夜徘徊を始める。交遊関係も広がり、そこで知り合った友達の家を渡り歩き、無断外泊や家出を繰り返し、シンナー吸引や有害サイト登録をするようになる。担任は家庭訪問を繰り返し、情報を集め、居場所をつきとめ、教職員と保護者とともに家へ連れ帰るが、数日後家を飛び出す。

#### 例2

2学期に他府県から転入する。新しい学校生活になかなか慣れず、欠席が増え始める。家庭での生活は昼夜逆転し、家に閉じこもることが多くなる。父子家庭で、父親は仕事の関係で家を空けることが多く、学校から家庭への連絡が取りにくい。転入前の学校の友人から遊びの誘いが度々あり、泊を伴って遊びに行くことが頻繁になり、長期間家を空けることが多くなる。

### 【2】具体的方策と留意点

#### ポイント 将来への生き方についての継続的な家庭訪問と相談活動

##### (1)信頼関係を築き、登校を促す家庭訪問

家庭訪問などで、児童生徒の様子を確かめるとともに、登校を促す。

##### (2)保護者との連携

保護者を支え、共に協力し合える信頼関係を早急に築き、粘り強くかかわる。具体的なアドバイスが必要な場合もある。

##### (3)交友関係の改善

本人を取り巻く仲間への指導を行う。

関係する学校間の連携を密にする。

関係諸機関との連携を積極的に行う。特に情報連携を重視する。

### 【3】関係機関等との連携

警察・少年（補導）センター・子ども相談センター・少年補導員・民生児童委員・主任児童委員・福祉事務所・青少年指導員・保護司等

## C 無気力型

先生や友人が迎えに行ったり、強く催促すると登校するが、長続きしない。無気力で何となく登校しない型。

### 【1】典型例

#### 例1

過干渉な母親のもとで育つ。中学校入学後、欠席が続いたので担任と教育相談主任が家庭訪問。母親は本人に登校するように口やかましく言っているが、本人はそのことについてほとんど反応しない。欠席理由も特にない。その後、毎朝迎えに行くと素直に制服に着替え、家を出る。登校すれば友人と元気に遊んでいる。しかし迎えに行かなければ全く登校せず、母親からの連絡もない。

#### 例2

父親のリストラの影響なのか、1学期終わり頃から毎日をぼんやりと過ごすことが多くなる。さらに最近可愛がってもらっていた祖母が亡くなり、無気力な生活態度は一層強くなっている。

### 【2】具体的方策と留意点

#### ポイント 具体的な生活目標についての継続的な相談活動

##### (1)積極的な家庭訪問

継続的に朝迎えに行ったり、空き時間や放課後に家庭訪問を行う。本人に会えなくても、保護者に学校の話をする。時には複数の教職員や相談員で訪問する。訪問できない時には電話をする。

学校からのプリント類は必ず届ける。本人の好きな行事や活動の前には、必ず家庭訪問し、そのことを伝える。

##### (2)保護者の理解と協力

保護者の悩みを受け止め、信頼関係を築きながら、焦らずに協力して取り組む。

家庭での家事分担などをさせ、本人に成就感をもたせる。

時間的に節度のある生活習慣を付けさせる。

##### (3)友達からの働きかけ

友達関係がすでにある場合は友達に手紙を持って行かせるなどして、本人の気持ちを和らげる努力をする。本人がいつ登校しても、温かく迎え入れる学級づくりに努める。

### 【3】関係機関等との連携

- ・スクールカウンセラー・総合教育センター・子ども相談センター・民生児童委員・主任児童委員・市町村福祉課等

## D 不安など情緒的混乱の型

登校の意志はあるが、身体の不調を訴え登校できなかつたり、漠然とした不安を訴え登校しないなど、不安を中心とした情緒的な混乱によって登校しない型。

### 【1】典型例

#### 例 1

3人兄弟の末っ子で甘えん坊である。母親はぜんそく傾向の兄に幼少の頃よりかかりっきりであったため、本人は母親に身体症状の不調を訴え、“赤ちゃん返り”の退行現象を見せるようになる。やがて、肥満傾向に拍車がかかりだすと、学校生活に不安を抱き、朝になると頭痛・腹痛を訴え欠席がちになる。

#### 例 2

小学校入学時、学習に意欲的に参加し、運動も得意だったこともあってクラスの中心的存在であった。小学校3年生の頃、忘れ物をして担任から厳しくしかられ、そのことが原因で、ランドセルのなかの学習用具を何度も確かめ、登校するのをためらうようになる。その後、玄関先の道路を行ったり来たりするようにもなり、休むようにもなった。担任が迎えに来て逃げだして隠れるようになり、まったく登校できなくなる。

### 【2】具体的方策と留意点

#### ポイント 関係諸機関と連携し話題を工夫した継続的な相談活動

##### (1) 状況に応じた家庭訪問

家庭訪問は、保護者から日々の家庭での生活のリズムを確かめた上で、効果的な時間に行う。(登校促進のタイミングをはかる)

##### (2) 保護者への心のケア

子どもの不登校で心を痛めている保護者の気持ちを十分に理解し、保護者との信頼関係を築く。また、カウンセラーや専門機関で相談を受けるようにアドバイスをする。

##### (3) 友達の温かいかわり

本人が学校に行きたくても行けないという状況を周りの友達に理解させ、登校できるようになったとき、自然な受け入れができるなど、温かいかわりができるように働きかける。



### 【3】関係機関等との連携

- ・スクールカウンセラー・メンタルフレンド・総合教育センター・子ども相談センター・医療機関(心療内科等)等



## E 意図的な拒否の型

本人が学校に行く意義を認めず、意図的に登校しない型。

注意：保護者が学校に行かせない場合は、不登校とは区別します。

### 【1】典型例

#### 例 1

担任として特に気にかかることもなかったが、ある日、体調不良のため欠席連絡が入り、その日から登校しなくなる。主な理由として、学校に行く目的が明確でなく、学習なら学校へ行かなくても家庭で十分にできると考えている。

#### 例 2

本人が現在の学校のきまりや教育内容等に疑問をもっており、学校へ行かず、家庭で学習を行っている。

### 【2】具体的方策と留意点

#### ポイント 拒否している事柄についての必要かつ可能な見直しと丁寧な教育相談

##### (1) 学校教育に対する保護者の理解を求める。

保護者の意向を十分聞き、共感的に受けとめるとともに、学校教育に対する理解を求める。

成績だけでなく、仲間たちとの交わりが人間の成長にとって大切な学習であることを理解させる。

本人を学校に引き寄せる工夫をする。(興味をもたせる取組等)

##### (2) 継続的な家庭訪問

学校が継続的な家庭訪問を行い、児童生徒の微妙な変化や様子を見逃さないようにする。

##### (3) 友達との交流

親しい友達との交流を通じて、先生や友達が、本人の登校を待ち望んでいることを機会あるごとに伝える。

本人が魅力を感じられる学校行事の情報を知らせるなど、学校生活の魅力を伝える。

### 【3】関係機関等との連携

スクールカウンセラー・子ども相談センター・主任児童委員・民生児童委員等

## F 複合型 (参考)

上記の1～5の型が複合していて、いずれが主であるか決めがたい型。

・不登校の指導については、子どもの自立心の問題、思春期特有の心の問題、大人への信頼感、学校生活や集団への適応の問題に配慮しながら、子ども自らの力を引き出すように状況に応じた支援に心がけることが必要である。